

◇小天守石垣復旧の過程



① 崩落石材番付作業
崩落した石材に番付し、位置を記録します。



③ 石垣解体作業（裏込め）
一段ごとに回収する築石に合わせて、裏込めを解体します。



⑤ 築石石材調査
石垣の積み方を把握するために調査、記録します。



⑦ 積み直し作業（石垣内部構造補強：現代工法）
小天守入口付近の乗込者導線の安全が確保できない箇所のみ、明治時代以降に積み直されている範囲に限り、石垣内部に構造材を敷き込みました。



② 崩落石材回収作業
測量等の記録作業後に、回収作業を行います。



④ 石垣解体作業（築石）
石垣解体時には上下左右の石材との接点を確認します。



⑥ 築石石材補修作業
割れている石材を接着し、再度積み直しています。



⑧ 積み直し作業（伝統工法）
解体前の写真等を参考に築石を積み上げます。

熊本城解体新書

その4

天守閣下石垣復旧に伴う調査成果
小天守・大天守附櫓石垣編

特別史跡 熊本城跡

所在地：熊本市中央区本丸外
指定日：昭和8年(1933)2月28日 史蹟指定
昭和30年(1955)12月29日 特別史跡指定
令和元年(2019)10月16日 最新追加指定
指定面積：約57.8ha(旧城域面積：約98ha)
石垣面数：973面(平成28年現在)
石垣立面積：79033.12㎡(平成28年現在)
石垣時期区分：7期に大別+文化財修復石垣

(熊本市2020「第7章付論 第1節 熊本城の石垣変遷」
『特別史跡熊本城跡地誌報告書 調査研究編』第2分冊)
※熊本市熊本城調査研究センターHPに
報告書ダウンロード可能リンク先あり

■熊本城（新城）天守の歴史

慶長4年(1599) 茶臼山山頂付近に新城の築城着手
慶長5年(1600) 天守(大天守)完成
慶長12年(1607) 新城が完成し「隈本」を「熊本」に改称
慶長16～元和年間(1611～1624) 小天守・大天守附櫓を増築
明治10年(1877) 西南戦争開戦直前に大天守・附櫓焼失
明治22年(1889) 熊本地震で石垣崩落、変状
昭和35年(1960) 鉄骨鉄筋コンクリート造の天守再建
平成28年(2016) 熊本地震

大天守穴蔵石垣が崩落
大天守外面石垣も一部崩落、変状

平成29年(2017) 天守閣と石垣の本格復旧着手
令和元年(2020)6月 石垣復旧完了
令和3年(2021)3月 天守閣復旧完了

■小天守・大天守附櫓石垣の特徴

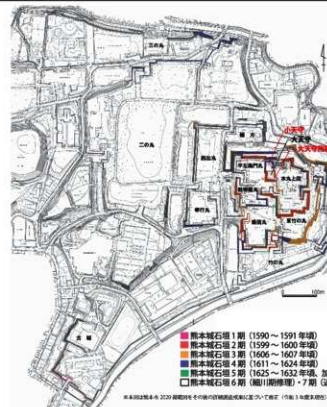
天守閣の建物下には、大天守・小天守・大天守附櫓の石垣が現存しています。これらは石垣の特徴から、大天守石垣と小天守・大天守附櫓石垣に大別できます。

本紙紹介の小天守・大天守附櫓石垣の特徴は、築石部が築石数石分で目地が通り、サイズが不統一の方形石材が使用され、隅角部は算木積みです。

こうした石垣は、現在目にする事ができる旧城域内に広く分布していることがわかっており、加藤清正死去直前の構築を一部含むつも、基本的にはその息子忠広の代に築かれた石垣です(熊本城石垣4期)。



小天守石垣東面 (H509・H511) 被害状況 (東から)



■熊本城石垣1期 (1599～1599年頃)
■熊本城石垣2期 (1599～1607年頃)
■熊本城石垣3期 (1606～1607年頃)
■熊本城石垣4期 (1611～1624年頃)
■熊本城石垣5期 (1625～1632年頃、加藤附櫓作理)
■熊本城石垣6期 (加藤附櫓作理)・7期 (近代作理)



小天守穴蔵石垣崩落状況



小天守石垣東面 (H509・H511) 復旧完了状況 (東から)

◆小天守石垣復旧と修理履歴

平成 29 年 12 月より本格的な崩落石材の回収、解体調査を開始しました。小天守石垣は崩落石材・解体石材を合わせると約 2500 石あり、平成 30 年 6 月末に復旧が完了しました。

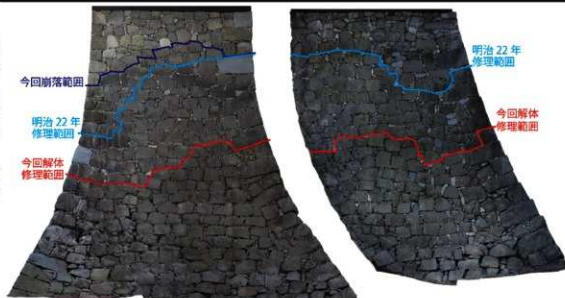
本来の出入口であった石段 (H503) を含む小天守穴蔵南東部は昭和 35 年天守再建時に一部モルタルを接着剤として使用し石材を一体化した積み方で修理されていました。

小天守穴蔵石垣のほとんどと小天守外面石垣東・西・北面の上部は明治 22 年熊本地震後に修理されていたことがわかりました。

◆小天守石垣解体調査成果

小天守東・北・西面石垣裏込め内ですべて東西方向に延びる石列を確認しました【下図赤色破線枠部分】。

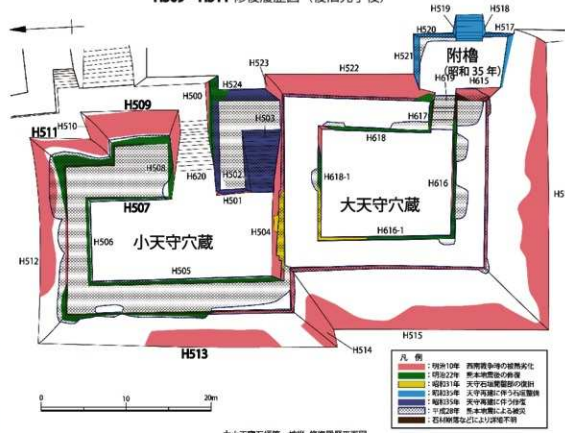
石列は江戸時代に裏込めに施工する際に造られたものです。この意味ははっきりしていませんが、今回の復旧に伴う積み直し作業で偶然同じような石列ができたため、作業工程上の単位の可能性が考えられます。



H509・H511 修復履歴図 (復旧完了後)



H507 修復履歴図 (復旧完了後)



小天守石垣等 被災・修復履歴平面図
大小天守石垣 被災・修復履歴平面図



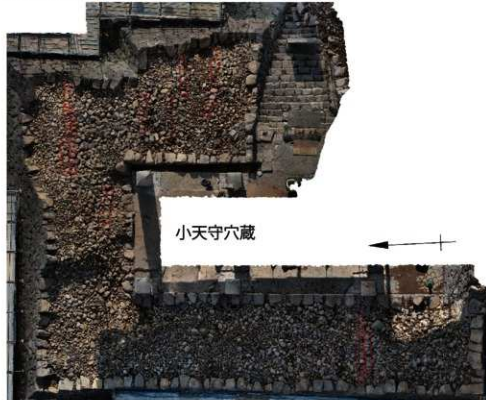
大天守附櫓埋込石垣確認状況平面図



大天守附櫓埋込石垣立面図

◆大天守附櫓石垣調査成果

大天守出口の石段・石垣 (H517-H521) は、昭和 35 年天守再建時に築かれたもので、平成 28 年熊本地震で被災しました。復旧作業に伴う発掘調査で石段・石垣内部から本来の天守への進入路であった江戸期の大天守附櫓石垣を初めて確認することができました。この石垣は小天守石垣と同じ特徴 (熊本城石垣 4 期) をもっているため、大天守附櫓は小天守とほとんど同じ時期に建造されたことがわかりました。現在、この石垣は遺構養生した上で昭和 35 年石垣の中に大切に保存されています。



小天守石垣最終解体状況平面図



小天守石垣積み直し作業状況



H513 修復履歴図 (復旧完了後)

熊本城跡は文化財保護法で国の特別史跡 (建造物・美術工芸品などの文化財指定「固定」と同じ意味) に指定されています。先人が築いた状態のまま後世に伝えることを目的に指定されているため、現状保存が原則となります。しかし、遺跡 (熊本城跡) を現状のままで後世に伝えることが難しい場合などは、きちんとした調査を実施した上で修理が行われます。上が黒帯の本パンフレットは、唯一無二の歴史的証拠をやむを得ず解体した際の調査成果を、より多くの皆さんに手軽にお伝えし、特別史跡熊本城跡としての価値をさらに高めることを目的としたものです。